



ロシアのお客様と共に、筆者（一番左）、杉原千畝氏（左から二番目）



契約調印後、ロシア式に!!



冬のモスクワで

ロシアでの杉原千畝さん

杉原さんと過ごした二人だけの4日間

初めてロシア（旧ソ連）を訪れたのは、1971年の初冬で、レニングラード（今日のサンクトペテルブルグ）の見本市に参加した時でした。当時、ソ連は政治経済体制の異質な国で、特に入出国のチェックが厳しく、滞在中の緊張感は大変なものでした。

お世話になった商社の所長は、年配で白髪端正な杉原さんという人でした。翌年モスクワに出張した折、杉原さんが、1940年ナチスに迫害され逃げてきたユダヤ人に、外交官としては訓令違反となるビザを発給し、約6,000人の命を救った当時の在リトアニア日本領事代理、杉原千畝氏であることを知

りました。

私はバルト三国のどこかで、人道的な行動をした日本の外交官がいたことは知っておりましたが、周囲の人が教えてくれるまで、杉原さんがその人だとは思ってもおりませんでした。

杉原さんは、露、独、仏、英の各国語に堪能で、ドイツ人、フランス人同席の会合では瞬時に彼らの言葉で会話をしておられました。特にロシア語は、契



山岡 建夫
JUKI 取締役会長

約書の文言をソ連の役人から相談を受け、流暢に口述筆記させていたぐらいでした。

商談の合間にモスクワで四日間、杉原さんと二人だけで過ごしたことがあります。ウォッカを飲みながらロシアのこと、ロシア人のことなど、実に多くのことを教えていただきました。

私は、ロシア人の親切で、人懐っこい、実に大らかな気風は好きですが、国として時々、外国人には理解し難い、理不尽としか思えない強引さには、違和感を覚えます。

そのように思いつつ、昨年11月の訪露も含め、今までに40回ぐらい訪れたこととなります。

日本とロシアは隣国で、それぞれ国際社会で影響力のある国ですが、両国間の平和条約は未だ締結されておらず、経済関係も希薄です。

双方の努力と熱意により、善隣友好の関係樹立を願うものです。

私の思い出写真館